



公益財団法人日本体育協会
総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン(通常号)

平成 25 年度 総集編

< 2. 連載記事 >

- (1) 東日本大震災被災地応援情報
- (2) わがクラブの人気プログラム



INDEX

2. 連載記事

(1) 東日本大震災被災地応援情報

- 1) [稲穂ファミリースポーツクラブ\(山形県\)](#) [第90号(平成25年4月22日発行)] P3
- 2) [まじゃらいんスポーツクラブ\(宮城県\)](#) [第91号(平成25年5月20日発行)] P5
- 3) [半九レインボースポーツクラブ\(宮崎県\)](#) [第92号(平成25年6月20日発行)] P7
- 4) [NPO 法人角館総合型地域スポーツクラブ\(秋田県\)](#) P10
[第93号(平成25年7月22日発行)]
- 5) [福島県内の支援活動](#) [第94号(平成25年8月20日発行)] P12
- 6) [JOTOクラブ\(東京都\)](#) [第95号(平成25年9月20日発行)] P14
- 7) [NPO 法人おにスポの取り組み\(北海道\)](#) [第96号(平成25年10月21日発行)] P17
- 8) [NPO 法人フォルダの取り組み\(岩手県\)](#) [第97号(平成25年11月20日発行)] P20
- 9) [宮城県内の総合型クラブの取り組み](#) [第98号(平成25年12月20日発行)] P22
- 10) [岩手県内の総合型クラブの取り組み](#) [第99号(平成26年1月20日発行)] P25

(2) わがクラブの人気プログラム

- 1) [「伊勢崎エコ・マラニック」伊勢崎西部スポーツクラブ\(群馬県\)](#) P27
[第90号(平成25年4月22日発行)]
- 2) [「幼児・小学生体育教室」元気・夢クラブ\(熊本県\)](#) P29
[第92号(平成25年6月20日発行)]
- 3) [「歩こう会」NPO 法人高城スポーツクラブ\(宮崎県\)](#) P31
[第94号(平成25年8月20日発行)]
- 4) [「ふあいぶる子ども科学実験教室」ふじみ野ふあいぶるクラブ\(埼玉県\)](#) P33
[第96号(平成25年10月21日発行)]
- 5) [「ボクササイズ教室」総合型スポーツクラブ TEAM たまぐすく\(沖縄県\)](#) P36
[第99号(平成26年1月20日発行)]

稲穂ファミリースポーツクラブの取組

1 同じ東北人として、何かできることを

稲穂ファミリースポーツクラブでは、東日本大震災で家を流され、長期の避難所生活をしている人たちに、同じ東北人としてクラブ会員みんなが何か支援できることはないかと考え、以下の支援活動を行いました。



[第1回支援活動 平成23年5月14日(土)]

●石巻市立飯野川第一小学校避難所への炊き出し支援

避難所生活をしている方たちが、避難所生活が始まって1ヶ月間、温かいものを一回も食べていないという情報を聞き、片道4時間かけて総勢27名で避難所へ訪問し、洋食300食(焼きたての庄内豚ステーキ・とん汁・サラダ・オレンジ)の炊き出しをしました。



[第2回支援活動 平成23年6月18日(土)]

●石巻市勤労者余暇活用センター避難所及び周辺住民への炊き出し支援

稲穂市との総勢27名で、洋食300食(ビーフシチュー・鯛のグリル・蕎麦と麦きりの合盛・サクランボ)の炊き出しをしました。

[第3回支援活動 平成23年9月17日(土)]

●石巻市立湊小学校避難所への炊き出し支援

総勢24名で、洋食400食(焼きたての庄内豚ステーキ・蕎麦と麦きりの合盛・サラダ)の炊き出しをしました。

[第4回支援活動 平成24年8月26日(日)]

●宮城県南三陸町歌津地区平成の森公園仮設住宅団地主催の夏まつりイベントの盛り上げ支援 (ストレス解消とリフレッシュ)

総勢26名で、大きく4つの支援活動をしました。①グラウンド・ゴルフ交流大会、②出店による食べ物の提供(洋食300食：焼きたての庄内豚ステーキ・ビーフシチュー)、③シャンソン歌手による歌の提供、④子ども遊びコーナーの設置。

2 変化する求められる支援 ～炊き出しから交流へ～

第1～3回目は避難所への炊き出しが支援内容でしたが、地震から7ヶ月後の平成23年10月には避難所が閉鎖される地域も出て、被災した方々は仮設住宅に移りました。仮設住宅での生活は、プライバシーに配慮されているものの、狭さや周囲の音、精神的な不安など様々な課題から新たなストレスが生じていることを聞きました。クラブで何を支援できるのか、仮設住宅の下見をしながら悩みました。その結果、仮設住居者がストレス解消できる支援活動をと考えて、第4回目からは、体を動かしたり交流ができる支援活動を行いました。東日本大震災から2年経過した現在では、仮設住宅で生活されている方のストレス解消が今後の支援活動に求められる要素だと感じています。



3 継続した交流・支援に向けて

平成 25 年度は 8 月 31 日（土）、第 4 回目の支援活動と同様に、宮城県南三陸町歌津地区平成の森公園仮設住宅団地が主催する夏まつりイベントの開催支援（ストレス解消とリフレッシュ）を行います。今年のグラウンド・ゴルフ交流大会は野球場貸切で行うことになったので、さらなる交流ができることを期待しています。

また、南三陸町のサッカースポーツ少年団を夏休みにマイクロバスで迎えに行き、山形県鶴岡市に招いて、本クラブ内の稲穂サッカースポーツ少年団と 8 月 2 日（金）～ 4 日（日）に合同夏合宿を計画しています。

（稲穂ファミリースポーツクラブ クラブ・コーディネーター 村田 久忠）

クラブプロフィール

設立年月日：平成 18 年 1 月 29 日

地 域：山形県鶴岡市

運 営：会員数 家族会員 146 家族（平成 25 年 3 月現在）※会員設定は家族会員のみ
予算規模 225 万円（平成 24 年度）

特 徴：スポーツ少年団の育成母集団から総合型クラブに発展。

連 絡 先：〒372-0812 山形県鶴岡市宝町 4-73

TEL・FAX：0235-24-8758

[INDEXへ▲](#)

まじゃらいんスポーツクラブの取組み

1 農業エコ体験とスポーツ交流の場に招待

被災地の子どもたちを元気づけたいとの思いから、下記の概要でスポーツ活動等が十分にできない子どもたちを対象に、農業エコ体験及びスポーツ交流を行いました。

主催：まじゃらいんスポーツクラブ
後援：公益財団法人宮城県体育協会
期日：平成24年10月27日(土)～28日(日) 1泊2日
場所：大崎市松山体育研修センター、
松山多目的芝生グラウンド、一ノ蔵本社蔵
内容：(1) 農業エコ体験 精米などを体験
(2) スポーツ交流 サッカーによる交流会
日程：第1日 10月27日(土)

15：00 開会行事
15：30～16：30 スポーツ交流
松山多目的芝生グラウンド
17：00～19：00 バーベキュー・夕食及び交流会
松山体育研修センター
19：00～ 宿舎移動

第2日 10月28日(日)
9：00～10：00 一ノ蔵本社蔵見学会(保護者・子ども)
10：00～11：30 農業エコ体験(精米など)
11：30～ 閉会行事



2 元氣と笑顔を取り戻してもらうために

東日本大震災による地震と津波の被害は甚大で、特に沿岸部が受けた被害は想像を絶するものがありました。震災から2年以上が経過した現在も、被災地では復旧・復興が急がれる状況です。

宮城県大崎市にある「まじゃらいんスポーツクラブ(以下、クラブ)」は震災直後から、宮城県内の津波被害の大きい地域の復興のために、設立母体である旧松山町サッカー協会のネットワークを活用して義援金を送る支援を行ってきました。しかし、原発事故により不自由な生活を余儀なくされている福島県の状況を知り、福島県の子どもた

ちに伸び伸びと体を動かしてもらおう招待事業を企画しました。

当初は、福島県内の総合型クラブと調整を図りましたが、上手くマッチングができなかったため、宮城県内の子どもたちの受入れ支援に変更しました。宮城県体育協会の協力もあり、声掛けの結果、石巻市開北サッカー少年団を招待しました。(石巻市は震災による死者、行方不明者が県内で最も多い地域です)

招待事業は、石巻市開北の子どもたちに日常のストレスを解消してもらい、元気と笑顔を取り戻してもらいたいとの願いから、1泊2日で「農業エコ体験・スポーツ交流招待事業」を実施しました。これは毎年クラブが実施している「農業エコ体験」事業のノウハウを活かした、クラブだからこそできる事業です。(クラブでは宮城県有数の米どころである土地柄を活かして、毎年クラブの子どもたちに田植えから稲刈りまでを体験してもらっています)

1日目はサッカー交流会を行い、2日目が農業エコ体験です。クラブ会長の田んぼを借りて精米作業とお米の収穫量当てクイズを行い、石巻市の子どもたちにとっては、久々に自然に触れ合う機会となりました。保護者も含めて総勢70名ほどの参加があり、とても賑やかに子どもから大人まで交流することができ、所期の目的を達成できました。クラブスタッフのみならず会員の保護者も多数応援に駆けつけ、準備から後片付けまでの作業を手際よく進めてくださり、地域のチームワークと情熱を感じた事業でした。

3 支援活動で気をつけたこと

この支援で一番気をつけたことは、支援の押付けにならないように配慮したことでした。現在、被災地支援活動は、支援される側にも連絡調整や当日の引率等負担がかかるため、支援を受入れることが出来る団体が限られ、またその団体に支援が集中している面があります。そういった面もあり県体育協会と協力し、支援される側の負担とならないよう準備を進めました。もし支援活動をお考えの際は、その点にもご注意ください。

この支援をきっかけにクラブでは、今回実現できなかった福島県の子どもたちへの支援も含めて今後も事業を継続し交流を深めたいと考えています。

(公益財団法人宮城県体育協会クラブアドバイザー 相田 恵美)

クラブプロフィール

設立年月日：平成20年2月3日

地 域：大崎市松山地区

運 営：会員数 102名(平成24年4月1日現在) 予算規模 922,000円(平成24年度)
(※5月末がクラブ総会のため平成24年度の数値)

特 徴：サッカーを中心に、スキー、登山などのクラブ事業を展開し、スポーツが本来持つ“楽しさ”をコンセプトに活動している。スポーツ以外に「米づくり」「ホテル観賞」「生き物調査」の自然体験活動や国際交流など、幅広い活動に取り組んでいる。

連 絡 先：〒987-1305 宮城県大崎市松山次橋字次橋82

TEL・FAX：0229-55-3409

Mail：info-majyaspo@grupo.jp

クラブHP：<http://majyaspo.grupo.jp/>

[INDEXへ▲](#)

半九レインボースポーツクラブの取組み

「半九レインボースポーツクラブ(以下、クラブ)」(宮城県宮崎市)では、宮城県で起きた数多くの災害(口蹄疫・鳥インフルエンザ・新燃岳噴火・台風災害など)から得た教訓を活かし、東日本大震災の被災地で不自由な生活を強いられている方々に笑顔になってもらおうと、支援活動を継続的に行っています。

1 平成24年度における主な活動内容

(1) 被災地での支援活動

第1回(平成24年4月21～22日)

対象：宮城県石巻市/塩釜市/七ヶ浜市のクラブ・福島県三春町の仮設住宅

内容：応援メッセージや日向夏みかんを届け、仮設住宅に鯉のぼりを上げました。

第2回(平成24年6月30～7月1日)

対象：宮城県石巻市のクラブ

内容：スポーツ教室(ウォーキング・サッカー)の協力、七夕イベント、そうめん流しを実施。

第3回(平成24年9月15～16日)

対象：福島県郡山市(会津)のクラブ・福島県三春町の仮設住宅

内容：スポーツ教室(サッカー・フライングディスク)の提供、木工教室、バーベキューイベントを実施。

第4回(平成24年12月15～16日)

対象：福島県三春町の仮設住宅・福島県二本松のクラブ

内容：スポーツ教室(バスケットボール)、バルーンアート、クリスマスレクリエーションイベント、食事会を実施。

第5回(平成25年3月10～11日)

対象：福島県三春町の仮設住宅・宮城県石巻市のクラブ

内容：スポーツ教室(フライングディスク・ウォーキング)、バーベキューイベントを実施。

※開催に携わった運営スタッフ数：延べ20名

(2) 被災地の子どもを宮城県に招いた交流会

名称：子ども交流会 in 宮崎

期日：平成25年3月26日～28日(2泊3日)

場所：宮城県内各地

内容：福島の子どもたちと宮崎の子どもたちとの交流会

日程：1日目 サッカー交流会(県総合運動公園広場)

交流学習会(テーマ：「福島と宮崎について」「災害について」)

宿泊(青島青少年自然の家)

2日目 スポーツなどの体験会(シーカヤック、イチゴ狩りなど)

キャンプ宿泊(蜂之巣公園コテージ)

3日目 サッカー交流会(木の花ドーム) フリータイム(県内レジャー施設)

※開催に携わった運営スタッフ数：30名

宮城県と福島県の総合型クラブ同士で交流を深めようと呼びかけ実施しました。福島県と宮城県の子どもたちがスポーツ交流などを通じてみんなで元気になり、お互いに一生の思い出をつくることができました。

(3) 講演会の開催

第1回：平成24年5月27日、宮崎市民文化ホール 参加者：約100名

テーマ：「大震災から1年 いま必要なことは(東北からのメッセージ)」

第2回：平成25年3月7日、宮崎市民プラザ 参加者：約100名

テーマ：「みんなの力で復興を!(福島県の現状)」

第3回：平成25年3月8日、高城町総合運動公園体育館 参加者：約80名

テーマ：「みんなの力で復興を!(福島県の現状)」(宮崎県総合型クラブ連絡会議において)

※開催に携わった運営スタッフ数：延べ20名

支援活動を通じて知り合った宮城県・福島県のクラブからクラブ関係者を招き、被災地の現状を伝える講演会を行いました。県内クラブ関係者と市町村行政担当者に対して現地の生の声を届けました。講演会参加者にとっては、震災復興の現実を知る機会となりました。

上記(1)～(3)のようなクラブの活動は、宮崎県が実施する「みやざき感謝プロジェクト」として認められ、平成24年6月から助成金の支援もいただき、またマスコミでも紹介されました。



2 支援活動のポイント

○被災地の状況に合わせた支援活動を!

震災後間もない頃は物資の支援が中心でしたが、被災地の状況に合わせて、少しずつ活動内容を変えています。現在では、定期的に避難所や仮設住宅を訪れ、軽スポーツやレクリエーションなどのイベント開催を行っています。これは、子どもや高齢者の方が、避難所や仮設住宅の生活で塞ぎ込みがちになっているという状況があったからです。

そのため、被災地での支援活動では、避難所や仮設住宅の外に出ようとしなかった方々が出てみようと思うきっかけづくりになるように活動を行っています。例えば、夏のイベントとして七夕にちなんで大きな笹竹を準備しみんなの願いを短冊にする、宮崎からの応援メッセージや日向夏みかんなどを届ける、軽スポーツのイベントやそうめん流し・バーベキューなどの行事を開催するなどしています。

○支援活動で気を付けること

- ・スポーツ教室やイベントの企画にあたっては、支援受入れ側と十分に協議を行い、支援する側の押しつけにならないようにすること。
- ・被災地における最新情報や状況に合わせて、必要と思われる人や場所に必要と思われる支援を、タイムリーに行うこと。

○被災地の方に特に好評だったこと

- ・軽スポーツ、レクリエーション活動の提供。
- ・名産品(宮崎県の場合、地鶏・ポンカン・日向夏みかん)の提供。



3 継続した交流・支援の思いを胸に!!

今後、クラブでは「応援の輪がどんどん広がっていくこと」「支援の渦がだんだん大きくなっていくこと」を願い、そのきっかけとなるよう、これまでの活動実績を活かして、小回りのきくクラブだからこそできる草の根運動的な活動を展開しようと考えています。

平成25年6月末には、福島県で被災地支援活動への思いを同じくする関係者が集まり、共同で七夕・夕涼み会(出店や軽スポーツ・レクリエーション活動)を計画しています。また、新しい試みとして被災地の方々に自分たちから足を運んでもらうことを考えているそうです。

仮設住宅などで塞ぎ込みがちな子ども、高齢者にできるだけ沢山参加してもらって、少しでも笑顔(元気)になってもらうこと、更には居住者のコミュニティづくり、復興の地域づくり、まちの活性化への一助となることを目指して、今後も活動を継続していきたいとクラブでは考えています。

(宮崎県クラブアドバイザー 宮田育俊)

※半九レインボースポーツクラブは、震災2日後から支援物資を車に積み込み仙台市に届けるなどの支援活動を行っています。

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data0/local/sc/pdf/hisaiti_ouen_10.pdf

クラブプロフィール (平成25年6月現在)

設立年月日：平成22年1月30日

地域：宮崎市清武町 人口約29,000人

運営：会員数 179名(平成25年6月1日現在) 年間予算規模：約1,300万円(平成25年度)

特徴：宮崎の恵まれた気候と自然を大いに活かし、健常者から障がい者、子どもから高齢者まで一緒に参加して楽しめるプログラムを実施している

連絡先：〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納甲1500-6

TEL：0985-34-9069 FAX：0985-34-9079

E-mail：rainbow_3080@yahoo.co.jp

クラブHP：http://www.geocites.jp/rainbow_3080/

[INDEXへ▲](#)

かくのたて
NPO法人角館総合型地域スポーツクラブの取り組み



キーポイント

- 被災地から避難されている被災者への支援活動
- 被災者を地域の一員として迎える
- 大事なことは、クラブとして「できること」を実施していくこと

1 被災地の子ども達との交流会

名称：楽しく・スポーツクラブ祭 ちびっ子運動会&読み聞かせ
対象：被災地から避難され、仙北市にお住まいの方々
日時：平成24年11月18日(日)9:00~12:00
場所：秋田県仙北市 NPO法人角館総合型地域スポーツクラブ体育館
内容：体を使ったゲーム、本の読み聞かせ、映画鑑賞などで楽しく交流を図り、心身のリフレッシュを図った。(実施種目など：ハイハイレース、パン食い競走、風船はこび、バランスボールころがし、読み聞かせ、パネルシアター、囲碁大会)
※地元住民及びクラブスタッフから地元農産物などを商品として提供されました。

参加者：40名
運営：クラブスタッフ15名
経費：10万円



2 支援活動の具体的な内容について

東日本大震災から2年以上経過しましたが、被災地の復旧・復興は依然大変な状況が続いています。「NPO法人角館総合型地域スポーツクラブ(以下、クラブ)」(秋田県仙北市)では震災後、厳しい交通状況などもありましたが、ただちに現地へ物資を送る支援活動などを行ってきました。現在も行政と連携をとりながら、市全体で被災者の受け入れ、物資支援などを行っています。

クラブが所在する仙北市では、震災後に被災者の受け入れ支援を行っています。仙北市、特にクラブの活動拠点である角館町や田沢湖町は東北地方有数の観光地ですが、震災の影響で観光客が激減しました。そこで、行政やホテル・旅館などの宿泊施設が働きかけ、空きのある宿泊施設や雇用促進住宅を被災者の受け入れ施設として活用することとしました。現在、仙北市が受け入れている被災者数は57名です(震災直後は97名)。

クラブでは、特に現在仙北市にお住まいの被災者の方々に、支援活動を積極的に展開しています(上記1の交流会などを実施)。

3 被災者を地域の一員として迎える

支援活動において、クラブではどんなに忙しくてもクラブで「できること」を見逃さないようにしています。

例えば、クラブハウスには地域住民が集まる交流広場があり、そこには無料で利用できるパソコンが設置されています。これは、被災者の方が故郷の知り合いとメール交換などができるよう配慮したものです。また、交流広場では被災者の方々が不安な気持ちなどを心おきなく言える場、そして被災者の声を聞ける場として活用できるよう雰囲気づくりに取り組んでいます。こうしたちょっとした取り組みをクラブでは大事にしています。

また、クラブが被災者と交流する上で心がけていることは、被災者の方々を被災者として「特別扱いしない」ことです。被災者の方を被災地の方として見るのではなく、地域に住む一員として接するということをクラブ会員にも伝え、共通理解として普段のクラブ運営を行っています。



4 故郷へ戻った方々への配慮と支援活動の今後

クラブでは、故郷に戻った方々にも「どうしていますか」「不便なことはないですか」という状況を聞き、適宜不足物資を送る支援も行っています。

被災地支援活動で苦勞していることは、被災地の復旧・復興が遅れていることへの懸念とそれに向けた対応であると考えています。しかし、クラブでは「クラブとしてできることに限りがあっても、助け合う心を決して忘れず、常に『今できること』『今やれること』に精一杯努める姿勢を欠かさない」ことを考えており、その姿に励まされました。

(公益財団法人秋田県体育協会クラブアドバイザー 田中 忠夫)

※NPO 法人角館総合型地域スポーツクラブの震災直後に行った支援活動の様子はこちらをご覧ください。

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H24/H24.2_fukkousien_akita.pdf

クラブプロフィール

設立年月日：平成 17 年 5 月 26 日

地 域：秋田県仙北市角館町勝楽 134

運 営：会員数 350 名 (平成 25 年 4 月 1 日現在)
予算規模 約 600 万円 (平成 25 年度)

特 徴：大型家具店倉庫をクラブハウスに改築。活動種目はスポーツ活動以外に囲碁、将棋、健康麻雀など文化活動もある。

連 絡 先：〒014-0341 秋田県仙北市角館町勝楽 134
TEL / FAX : 0187-54-1505

[INDEXへ▲](#)

福島県内の支援活動



キーポイント

- 福島県双葉地区連絡協議会が自ら交流活動を実施
- 福島県双葉郡広野町のクラブが自らスポーツ大会を開催
- NGO 団体が福島県内にある総合型クラブの活動を支援

今回は、福島県内での総合型クラブなどによる復興に向けた活動をご紹介します。

1 「双葉地区ユニオン交流事業 in かわうち」の開催

福島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「うつくしま総合型スポーツクラブユニオン」は、県下8つの地区連絡協議会（ユニオン）に加盟する87クラブで組織されています。

「双葉地区ユニオン」では東日本大震災以来、初めての交流事業として平成25年7月7日に双葉郡で最初に帰村を果たした川内村でウォーキング大会を開催しました。

県内各地で避難生活を送っている双葉地区ユニオン加盟の6クラブから240名が参加し、復興が進む川内村を歩くことで、双葉郡の仲間に元気と勇気を与えることができた交流事業となりました。

事業費は全て1人300円の参加料で運営され、ゴール地点では「かわうちKOMERAクラブ」より、一人一人にとん汁と参加賞として川内高原農産物栽培工場で人工光と地下水を使って水耕栽培された野菜が手渡され、歩き終えた参加者からは「楽しかった」「また参加したい」との声が多く聞かれました。

この事業は、かわうちKOMERAクラブの頑張り、活発に意見を出し合い参加協力した双葉地区ユニオンの結束力が成功の要因です。

2 復興祈念イベント「MIKANカップ」の開催

震災と原発事故双方の多大な影響を受けた地域にある「広野みかんクラブ」（双葉郡広野町）では、広野町復興の足がかりにしたいという考えから、クラブの自主事業として復興祈念イベント第1回「MIKANカップ」フットサル大会を平成24年10月に開催しました。

平成25年は第2回「MIKANカップ」を、スポーツ振興くじ助成金も活用して「スポーツで広野町を元気に」を合言葉に年間を通じた複数種目で開催することとし、5月には「バレーボール大会」、6月には「フットサル大会」を広く町民を対象に実施しました。

5月のバレーボール大会（事業費193千円・助成金含む）では、双葉地区ユニオンの「ならはスポーツクラブ」（楢葉町）や「さくらスポーツクラブ」（富岡町）からの特別参加もあり、参加者は女子・混合合わせて12チーム120名で幅広いスポーツ交流ができました。これにより広野町に住みたいという方々の増加や町民の帰還を促し、元気なまちづくりにつながればと考えています。

6月のフットサル大会（事業費341千円・助成金含む）では、混成の部10チーム120名の参加がありました。通常ではほとんど子どもの姿が見られない広野町ですが、家族で参加するチームや家族の応援に来る子どもたちも多数あり、「久しぶりに子どもたちの元気な姿を見ることができ嬉しかった」という高齢者も多数いました。

今後は8月に夏季野球大会、9月にバレーボール大会、10月にフットサル大会、11月には野球大会を計画しています。

広野みかんクラブの大和田クラブマネジャーは「この大会をきっかけに『広野町は楽しいな、良いところだな』と感じてもらい、地域住民には生きがいを、町外の皆さんには『住んでみたいな』と思っていただけるような事業に成長させたい。そのためには種目数のさらなる増加やオリジナルルールの開発などにより、だれもが気軽に参加でき地

域にアピールできる魅力的な大会にしていきたい」と熱い想いを話してくれました。被災地のクラブが自らの事業で地域の復興に挑戦している事例なので、この想いが今後の具体的な成果につながることを期待したいと思います。

3 ふくしまコメラさんさんプロジェクトと絆キャンプの開催

原発事故後の福島県内では、屋外遊びが制限されたり、避難により家族と離れ離れになったりしている子どもたちがいます。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)は、福島県内の比較的線量が低く豊かな自然環境の中で安心して元気に外遊びができる場を提供することを目的として「ふくしまコメラさんさんプロジェクト(コメラPJ)」を企画しました。

コメラPJとは、県内の総合型クラブ(ひのきスポーツクラブとかつらおスポーツクラブ)が主管する「子どもたちのサマーキャンプ」の開催を後方支援しながら、さらにはキャンプ事業の実践に必要な指導者のスキル向上を目的とした事前セミナーを、県内の総合型クラブ関係者を対象に2日間開催する事業です。キャンプ現場で子どもの成長に有益な運動を提供し、子どもたちの主体的な参加を引き出すための実践的なプログラム形成や実践能力を涵養することが目的です。

セミナーには、県内総合型クラブや関係団体から10団体16名の参加があり、自然体験・野外活動や子どもと運動、総合型クラブを軸とした子どもへの運動機会提供の可能性などについて多数の専門分野の講師からレクチャーを受けました。

県内2カ所で開催される夏休みサマーキャンプの速やかな後方支援(参加料無料)に連動させるコメラPJは、特に被災地の子どもの安心で元気な外遊びの場を提供する斬新な取り組みとなっています。この事業は自然環境豊かな総合型クラブを活動の場とし、互いに協働する展開方法で、一過性のイベントではなく今後地域のクラブを拠点とした子どもたちの継続的な活動プログラムの定着に可能性を秘めた実践であり、SCJのミッション実現に効果的な取り組みと考えます。

(福島県クラブアドバイザー 板垣晶行)

[INDEXへ▲](#)

JOTO クラブの取り組み

👉 キーポイント

- メールマガジンで得た情報をもとに支援活動
- 現地でのスポーツ指導とスポーツ用具の提供
- 被災地の方が望むことを第一に考え、押し付けにならないよう配慮する

1 「JOTOクラブ」と「SUN陸リアススポーツクラブ」の交流

実施日	平成24年11月17日(土)・18日(日)
活動場所	大船渡市三陸町綾里中学校体育館
支援対象者	綾里地区仮設住宅と近隣にお住まいの方
内容	クラブスタッフがファミリーテニス、ビーチボールバレー、スポーツ吹矢を指導
参加者	約70名(2日間)
運営	スタッフ9名
経費	28万円(旅費…277,500円、ボール空気入れ…2,500円) ※その他スポーツ用具は足立区・スポーツ吹矢協会からの寄付とクラブ所有のものを使用

2 メールマガジンがきっかけ!

きっかけは、公益財団法人日本体育協会が発行する総合型クラブ公式メールマガジンに「岩手県の仮設住宅入居者の運動不足を、スポーツでなんとかしてほしい」という内容が書かれていたのを「JOTOクラブ」(東京都足立区)ゼネラルマネジャーの三谷弘明さんが見つけたことでした。岩手県における総合型クラブの状況を知り「同じ総合型クラブとして役に立ちたい」と、被災地支援について運営委員会で話し合いました。

岩手県内クラブの自立につながることをしたいとの思いから、現地から被災された方を招いて交流事業を行う、クラブから寄付金を送るなど様々な案が出ました。その中から「被災地の方々と一緒に何かできないか」という考えを採用し、岩手県クラブアドバイザーの伊藤さんに連絡を取って、支援要望があった「SUN陸リアススポーツクラブ」にスタッフが訪問してスポーツ指導を行うことになりました。



3 交流後にスポーツ用具を提供!

被災地との連絡、交通経路確認、宿泊手配をJOTOクラブのスタッフが行い、受入れ側クラブの負担とならないよう準備を進め、鉄道とレンタカーで現地を訪問しました。経費は一部JOTOクラブが支出しましたが、ほとんどはスタッフの個人負担で行いました。

会場は大船渡市三陸町綾里中学校体育館。同校の校庭には仮設住宅が建てられ、90世帯が生活していました。当日は仮設入居者の他近隣住民や小中学生ら、2日間で約70名が参加しました。

JOTOクラブスタッフは、誰でも簡単に楽しめるファミリーテニス、ビーチボールバレー、椅子に座ったままでもできるスポーツ吹矢を丁寧に指導しました。日本スポーツ吹矢協会公認指導員の横田博文さんは「子どもたちも夢中で、2日目はみんなムキになっていたほど」と手ごたえを感じていました。

また、この交流をきっかけに種目を継続していただくようにと、JOTOクラブからテニスラケット、日本スポーツ吹矢協会から吹矢4セット、足立区スポーツ振興課からはビーチボールなど、当日使用したスポーツ用具が支援物資としてSUN陸リアススポーツクラブに寄贈されました。

SUN陸リアススポーツクラブ熊谷会長は「用具をいただいたので、ファミリーテニス、ビーチボールバレー、スポーツ吹矢を普及していきたい。冬場の寒いときのゲームとして行いたい」と話していました。



4 継続した支援活動に向けて

JOTOクラブ出口会長は、「岩手県でいろいろ見てきて勉強になった。当クラブにとっても、これからの方向性が見えた気がする。足立区にとどまらず『スポーツは楽しい』ということを広めていきたい」とおっしゃっていました。また、JOTOクラブ三谷さんは、「被災地の方々を迎えてスポーツやコンサートを行ったり、被災地に文化事業を紹介するなど、今後も交流事業は続けていきたい」と支援活動の継続に向け意欲を示していました。

支援にあたっては、被災地の方が望むことを第一に考え、何よりも押し付けにならないよう配慮が大切です。被災地のクラブとはこまめに連絡を取り、訪問には、当日の天候や急な予定変更への対応が可能な無理のないスケジュールを組むことが必要です。

子どもから高齢者の方々まで、自分の好きなスポーツや文化活動を通して元気な生活を送ることができる環境を創る、そして失われた地域コミュニティを再生するために、総合型クラブはその一助を担う存在であると考えています。

(東京都クラブアドバイザー 小内清子)

設立年月日：平成20年2月24日

地域：東京都足立区千住常東地域

運営：会員数 70名(平成25年8月現在)
年間予算額 約180万円(平成25年度)

特徴：地域の人々に活発なスポーツ活動、心豊かな文化活動、自主的な奉仕活動を通じて、人間形成と健康づくりを行い、出会い、ふれ合いのある魅力的な人づくり、街づくりを実現する。

連絡先：〒120-0022 東京都足立区柳原2-49-1 足立区立千寿桜堤中学校内
TEL 080-5688-8932 FAX 03-6427-8932
E-mail: senju-joto-kurabu@ezweb.ne.jp

※参考:日本体育協会公式メールマガジン連載「東日本大震災被災地応援情報」

岩手県の支援活動に関する記事

○被災地クラブの活動状況と復興へ向けて(前編)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H24/H24.5_iwate.pdf

○被災地クラブの活動状況と復興へ向けて(後編)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H24/H24.6_tohoku_aid.pdf

○岩手県陸前高田市に初の総合型地域スポーツクラブが誕生

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H24/H24.12_tohoku_aid_iwate-folder.pdf

[INDEXへ▲](#)

NPO法人おにスポの取り組み

👉 キーポイント

- 被災地の方々の「生きがい・やりがい」を取り戻すため、木工加工工房を開設
- 白樺の樹を仮設住宅にお住まいの方が工芸品に加工、販売
- 支援したい側と支援を受けたい側との思いのバランスをとることが大切

1 福島県葛尾村での支援活動

名 称	平成 24 年度「福島県総合支援（地域協働モデル支援事業）受託事業」 仮設住宅における生きがい作り構築支援事業（ふく福プロジェクト）
実施期間	平成 24 年 10 月～現在 ※県委託事業としては平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月
支援先	福島県葛尾村
支援対象者	葛尾村仮設住宅にお住まいの方々
内 容	福島県の委託事業を受け、仮設住宅に木工加工工房「 <small>ゆめこうぼうかつろう</small> 夢工房葛桜」を開設、北海道十勝産白樺の樹を、仮設住宅にお住まいの方々がフクロウに加工した工芸品を販売。その収益は復興支援金に充当した。



2 支援活動のきっかけ

「NPO法人おにスポ(以下、クラブ)」(北海道登別市)が支援活動を行うようになったきっかけは、日本体育協会公認クラブマネジャー養成講習会で同期受講生だった「NPO法人半九レインボースポーツクラブ」(宮崎県宮崎市)の澤山さんが東日本大震災直後から被災地支援活動を行い、現地の情報を発信してくださっていたことに始まります。

その澤山さんと一緒に平成24年に福島県葛尾村を訪問した際に「かつらおスポーツクラブ」の中島会長から被災地の状況を伺い、当クラブとして何かできないかと検討する中で、仮設住宅にこもりがちの方々に「生きがい・やりがい」を提供するべきだと考えました。そこで、平成24年度に福島県が公募していた「地域づくり総合支援事業(ふるさと・きずな維持・再生支援事業)」に、仮設住宅に木工加工工房「夢工房葛桜」を開設、被災地の方が工芸品を作り販売することで「生きがい・やりがい」

い」を取り戻すという内容の「ふく福プロジェクト」を提案し、受託しました。

3 ふく福プロジェクト

「ふく福プロジェクト」は、かつらおスポーツクラブの中島会長から希望を受けて事業化したものであり、このプロジェクトと併せて夢工房葛桜で物産展や講演会も開催しました。

しかし、北海道という遠方から福島県内の事業を進めることは予想以上に大変でした。工房開設のために仮設住宅の土地を借りる必要があるなど、知らない土地で知らない方々と関係を持つことは容易ではなく、限られた時間の中で何度も現地に足を運びました。そのおかげもあり、葛尾村教育委員会との連絡・調整など現地で活動していただくコーディネーターを雇うことができ、また全国有数の白樺産地である北海道十勝に所在する「NPO法人幕別札内スポーツクラブ」の協力を得て、白樺の調達・伐採・剪定・梱包・輸送などを行うこともできました。

主な経費

項目	金額	備考
人件費	25万円	現地コーディネーター、クラブスタッフ現地活動報酬
謝金	10万円	講師謝金
旅費	20万円	
需用費	50万円	消耗品、印刷製本費など
雑役務費	10万円	
委託費	30万円	白樺の樹伐採、梱包、輸送費など
工事請負費	100万円	建築工事
リース費	90万円	物件の賃貸料

4 プロジェクトの成果

このプロジェクトでは全てが思惑通りに進んだとは言えませんが、仮設住宅にこもりがちだった男性の高齢者が工房に集まるきっかけづくりができました。実際に工房を訪れた男性たちから「男の遊び場だあ」という声が聞かれ、仮設住宅の一步外に出るきっかけづくりになったと感じました。また、子どもたちも「夢工房に集合!」と元気に遊んでいることから仮設住宅の方々にもこの工房が認知されてきたと感じています。

平成25年度は福島県の委託事業を受けることができなかったため、人件費等はボランティア対応となりましたが、各種イベントなどでの募金を活用して事業を継続しています。

支援活動の中で気を付けていることは、支援する側の思いだけで事を進めないことです。支援活動である以上、被災地の方々が喜ぶ活動である必要がありますが、支援する側としてはどうしても自分たちの思いや都合を前面に出しすぎてしまう傾向があり、それがかえって被災地の方々の迷惑となることもあります。支援したいという思いと支援を受ける方々の思いとのバランスを取り、良い関係をつくるのが大事だと思います。

(理事長 磯田 大治)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年2月27日(法人登記:平成25年3月19日)

地 域：北海道登別市全域

運 営：会員数 400名(平成25年3月現在) 予算規模:約2700万円(平成25年度)

特 徴：駅前の空き店舗を活用したクラブハウスが特徴。25年度からは運動施設以外の公共施設の指定管理者となり、市民活動全体を視野に入れた取り組みを行っている。

連 絡 先：〒059-0014 北海道登別市富士町4丁目6番地2

TEL/FAX:0143-81-7444

E-mail: noboribetsusc@yahoo.co.jp

URL: <http://onispo.web.fc2.com/>

[INDEXへ▲](#)

NPO法人フォルダの取り組み



キーポイント

- 東日本大震災直後から継続して支援活動を行う
- 誰もが気軽にスポーツに触れられる環境を整えるために新クラブハウスをオープン
- 新たな取り組みとしての「入会金・年会費の無料化」

支援事業概要

名 称	岩手県スポーツ支援
実 施 日	通年
活 動 場 所	岩手県沿岸部
対 象 者	県民
活 動 内 容	総合型地域スポーツクラブを設立・運営支援
運 営	スタッフ2名
経 費	0円

1 東日本大震災からの復興に向けて

「NPO法人フォルダ(以下、フォルダ)」(岩手県北上市)では、東日本大震災直後から避難所の運営や物資の調達・運搬などを行いましたが、時がたてば支援の形も変化し、現在ではスポーツを被災住民の自立に役立てたいと考えています。昨年(平成24年)に設立支援を行ったクラブでは、地域の方々が自ら企画・運営し、仮設住宅などを駆け巡って元気に活動しています。運営のサポートをしていて、自ら行動していく姿、徐々に笑顔が増えていく様子は頼もしいです。このクラブのように、一人一人が震災から一歩踏み出すきっかけとしてスポーツを活用していきたいと思います。また、平成25年5月にスイス・ジュネーブで開催された国連主催の学会「防災グローバル・プラットフォーム」において、フォルダの復興支援について発表しています。

加えて、沿岸地域を案内する活動も行っております。全国各地の方から、「何ができるのか」とよく聞かれますが、まずは自分の足で訪れてほしいです。見もせず触れもせず考えるよりも、次のアクションが見つかると思います。ご連絡をいただければいつでも協力させていただきます。

2 フォルダ新クラブハウス OPEN !!

平成25年6月、「沿岸地域のパワーに負けていけない!」と、フォルダも岩手県北上市にクラブハウス「フォルダパーク」をオープンしました。これは、商業施設の跡地を利用したものです。今までのクラブの活動拠点は公共施設が主で、場所や利用時間に限りがあり、とても非効率なものでした。そこで、大型の空き店舗を使えばさらに幅広い事業展開ができるのではないかと考え、賃貸契約を結びました。その結果、より多くの教室(週50~60教室)やイベントが開催できるようになりました。2階建ての館内は吹き抜けになっており、1階に教室会場が2面、2階に小部屋が2部屋あります。活動の様子が見渡せる造りになっているため、「楽しそう」「やってみたい」というきっかけが生まれています。

運動スペースのほかに、休憩・キッズスペースや卓球台も用意し、子育てママさんの居場所や教室送迎時の待機場所、天候に左右されない遊び場にもなっています。また、教室の空き時間は運動スペースを貸し出し、跳び箱・マット・バランスボールなど普段使う機会の少ない用具で楽しんでいただいています。

平成25年9月、被災者の方々による北上市内観光ツアーが開催されました。参加者は沿岸にお住まいの12名。前日に担当者から「買い物ついでにフォルダパークで運動指導をしてもらえないか」という依頼がありました。初めての場所で少し緊張気味の方もいましたが、簡単にできるストレッチやバランスボールなどで身体を動かし、最後は「いい汗をかきました」と笑顔で帰っていかれたのが印象的でした。被災者と交流ができただけでなく、フォルダパークの持つ「いつでも運動ができる場所」としての役割が機能したと感じました。



3 今後のクラブ活動について

クラブハウス「フォルダパーク」を核に、誰もが気軽にスポーツに触れられる環境を整えていきます。今後、日本の総合型クラブは公共的なクラブにしていくことが求められると感じます。そのためにまず鍵となるのが、入会金・年会費の無料化です。フォルダでも今年度(平成25年度)から無料に切り替えました。先に挙げた運動教室の例にしても、もし年会費・入会金が必要だった場合、フォルダパークを利用していただけたでしょうか。たとえ「やってみたい!」と思っても、「たった1回のために入会金や年会費はもったいない…」という声は多いのではないのでしょうか。

加えて、フォルダの教室は大人1回500円、子供250円で参加できます。スポーツをするためのハードルをいかに低くできるか、フォルダはいつでも誰でも思う存分体を動かして楽しめる環境づくりをすすめます。

(プロジェクトリーダー 北洞航)

クラブプロフィール

設立年月日：平成17年4月

地域：北上市93,878人(平成25年8月現在)

運営：会員数1,487人(平成25年9月現在) 予算規模:8,500万円(平成25年度)

特徴：「いいだしっぺ」が企画する方式がクラブの原点。平成23年4月には指定管理施設設計10カ所目を受託する。平成25年6月に商業施設の跡地にクラブハウスを持つ。従業員は23名。大型で革新的なクラブとして展開中。

連絡先：〒024-0072岩手県北上市北鬼柳21-99-1

TEL/FAX:0197-72-7048

Email: folder@kitakamicity.com

宮城県内の総合型クラブの取り組み

Q1 貴クラブの活動状況について、直近1年間でどのような変化がありましたか？

A.

平成24年度までの状況	平成25年度の状況
<p>【南光台東エンジョイ倶楽部（仙台市泉区）】</p> <p>○南光台東地域では、震災により多くの施設が全半壊等大きな被害を受け、倶楽部も50日間教室・イベントの活動が中止となりました。平成24年度は集会所・コミュニティセンターの施設等の近隣施設へ出かけて事業を行いました。</p>	<p>○小学校体育館が震災後の修理が終わっておらず使用できないため、バドミントン教室等は、コミュニティセンターの狭い会場での教室となっています。集会場でできる種目として、新しくスポーツ吹き矢教室を始めました。小学校の校庭は使用できるので、グラウンドゴルフ、ペタンク教室を行っています。12月から小学校サッカー部として、月3回のサッカー教室を開くことになり、子どもの会員も増え活気と元気あふれる倶楽部になるよう頑張っています。</p>
<p>【マリソル松島スポーツクラブ（松島町）】</p> <p>○クラブマネジャー1人で運営等を行う状況でした。</p>	<p>○サブマネジャーを入れ2人体制で運営等ができるようになりました。</p>
<p>【りふスポーツクラブ“スポメイトりふ”（利府町）】</p> <p>○震災の影響で、一時会員数が減りましたが、1年後には震災前までの数に戻りました。</p>	<p>○会員数が増加しました。</p>
<p>【スポーツクラブWAY[®]（美里町南郷）】</p> <p>○総合型クラブの意義を説明しても、なかなか受け入れてもらえないことが多々ありました。そのことが活動場所の借用等にも影響していました。</p>	<p>○地域でクラブのことが話題にあがるようになりました。「総合型って何?」「スポーツクラブWAY[®]はどんなことをしているの?」と聞かれることも多くなりました。活動が周知されてきたと感じています。</p>
<p>【川崎町総合型スポーツクラブ「運動笑楽校」(川崎町)】</p> <p>○活動可能なプログラムを無理のない範囲で実施しました。</p>	<p>○総合型クラブの存在が、地域住民に広がりはじめ、体育協会、スポーツ少年団との共催事業がスタートしています。</p>
<p>【女川町スポーツクラブネット（女川町）】</p> <p>○クラブ活動の一部を再開しました。</p>	<p>○平成24年度と同様の状況です。</p>
<p>【多賀城市民スポーツクラブ（多賀城市）】</p> <p>○震災の影響により一部使用できない、または、使用に制限のある施設がありました。</p>	<p>○災害復旧工事がほぼ全施設で終了したため、震災前と同様の利用が可能となりました。</p>
<p>【レッツいわぬまスポーツネット（岩沼市）】</p> <p>○震災により、会員数が減少し、また、教室会場が確保できなくなってしまったので、もともとやっていた教室やイベントを中心に活動を再開させました。</p>	<p>○toto助成金により事務局が常に運営できる状態になりました。また、会員も増加し、様々なイベントを行えるようになりました。会場確保にはまだ苦労していますが状況は良くなりました。</p>

<p>【尚綱学院大学総合型地域スポーツクラブ絆・KIZUNA(名取市)】</p> <p>○平成25年3月に設立しました。</p>	<p>○クラブとして本格的に活動を開始し、バレーボール、テニス、ヨガストレッチ、レクダンス、ウォーキング、グラウンドゴルフ、健康な暮らし講座をメイン事業として実施しています。</p>
<p>【いしのまき総合スポーツクラブ(石巻市)】</p> <p>○市民ハイキング等のイベントを開催しましたが震災の影響もあり、積極的に参加いただける方が少なく、参加者があまり集まりませんでした。</p>	<p>○スポーツ教室や各種イベント等に参加する方が増え、また、「教室に来ると元気になれる!」という方が多く見受けられるようになりました。</p>
<p>【わかやなぎスポーツクラブ(栗原市若柳)】</p> <p>○クラブ事務局主導の運営体制でした。</p>	<p>○クラブ会員の自立性が、活動において少しずつ培われてきました。</p>
<p>【アクアゆめクラブ(七ヶ浜町)】</p> <p>[直近1年間の出来事]</p> <p>○会員数の減少(プログラムの一部が再開できないため)</p> <p>○県外からの視察の増加</p> <p>○アスリートによる被災地支援がなくなってしまった</p> <p>○会場の確保が難しい(学校開放がパンク状態)</p>	<p>○toto助成金に助けられている</p> <p>○他クラブとの連携事業の実施(七ヶ浜・気仙沼)</p> <p>○新規事業につながる提案の増加(行政からの委託事業)</p>

Q2 支援活動(被災地・被災者支援)を行っている総合型クラブ等について、直近1年間でどのような変化がありましたか?

A.

平成24年度までの状況	平成25年度の状況
<p>【尚綱学院大学総合型地域スポーツクラブ絆・KIZUNA(名取市)】</p> <p>○避難所や仮設住宅での活動を行いました。健康体操や食育教室、カラオケ教室など名取市内2か所と仙台市内2か所で寄り添い活動を実施しました。</p>	<p>○仮設住宅集会場での寄り添い活動を継続して行っています。健康体操、ヨガストレッチ、お花見会、夏まつり、いも煮会など季節ごとの行事も普段の活動以外に行っています。</p>
<p>【レッツいわぬまスポーツネット(岩沼市)】</p> <p>○震災により、会員数が減少し、また、教室会場が確保できなくなってしまったので、もともとやっていた教室やイベントを中心に活動を再開させました。</p>	<p>○toto助成金により事務局が常に運営できる状態になりました。また、会員も増加し、様々なイベントを行えるようになりました。会場確保にはまだ苦労していますが状況は良くなりました。</p>

Q3 被災地や貴クラブが復興していくために、今後求められることは何でしょうか?

A.

<p>【マリソル松島スポーツクラブ(松島町)】</p> <p>○地域(住民)に必要とされるクラブ運営が求められます。</p>
<p>【スポーツクラブWAY(美里町南郷)】</p> <p>○少しずつであっても地道な活動を継続し、被災者の心の支えになる等、一人ひとりに寄り添った活動が求められます。</p>

【女川町スポーツクラブネット（女川町）】

○クラブ会員の増加が求められます。

【多賀城市民スポーツクラブ（多賀城市）】

○スポーツ活動のきっかけづくり、場所の確保・提供

【レッツいわぬまスポーツネット（岩沼市）】

○会員確保、安定した資金源の確保、安定した会場の確保、地域交流、自主運営の理解、運営側の人材確保等

【尚絅学院大学総合型地域スポーツクラブ絆・KIZUNA（名取市）】

○復興支援に係るスポーツクラブや団体等へ公私にわたる支援の継続が必要です。また、復興支援のための学習会や交流会等の設定も求められます。

【いしのまき総合スポーツクラブ（石巻市）】

○皆がスポーツを通して明るく元気になれるような、ニーズに合った教室やイベントを開催していくことが求められます。

【わかやなぎスポーツクラブ（栗原市若柳）】

○地域の各世代におけるニーズを確実に拾っていけるようなコミュニケーションづくりが必要です。

【エナブルスポーツクラブ（仙台市）】

○toto助成金を活用して、地域の子ども達からお年寄りまで体を動かす機会を増やしていくことが必要です。

[INDEXへ▲](#)

岩手県内の総合型クラブの取り組み

Q1 岩手県内にある総合型クラブの活動状況について、直近1年間でどのような変化がありましたか？

A. クラブ活動の再開や会員数が復調されてきました。

平成24年度まで	平成25年度から
○沿岸地域で新たに総合型クラブが設立されました(4クラブ)。	○toto助成事業等を活用して本格的な活動再開を行っているクラブが増えています。
○クラブが単独で事業を実施していました。	○関係機関と連携した事業展開や事業の多様化が見られてきました。
○震災による倒壊等により活動場所が限られていました(施設がない)。	○同様(27年度以降に施設が建設されていく計画です)
○震災に伴い会員数が減少していました。	○震災以前の会員数に復調しています。

Q2 岩手県内で支援活動を行っている総合型クラブや岩手県外から支援活動を行っている総合型クラブ等について、直近1年間でどのような変化がありましたか？(支援内容の変化等)

A. 交流事業等の人的な支援が継続されています。

平成24年度まで	平成25年度から
○被災地のクラブ(特に沿岸部のクラブ)が県内外の地域を訪問しての交流事業を行っていました。	○被災地のクラブがクラブの地元に県内外のクラブ等を受け入れての交流事業が行われています。
○金銭的な支援(義援金等)や物資の支援が主でした。	○金銭的な支援はなくなり、交流事業等の人的な支援が継続されています。

Q3 岩手県内の被災地や総合型クラブが復興していくために、今後求められることは何でしょうか？

A. 再開した事業の継続や仮設住宅を出られた方々への支援活動が必要です。

平成24年度まで	平成25年度から
○「応急仮設住宅」や「見なし仮設」に居住している方々への支援活動を行っていました。	○仮設住宅を出られた方々に対する支援活動が必要です。
○停滞していた事業の再開を行っていました。	○再開した事業の継続や地域住民のニーズ・参加者の掘り起こしが必要です。
○人が集う場づくりを行っていました。	○人が集う場づくりから「地域コミュニティ」づくりへと発展させる必要があります。
○体を動かす機会の提供を行っていました。	○体を動かす機会の提供を継続するとともに、体力低下等の課題に取り組む必要があります。



(岩手県クラブアドバイザー 伊藤 啓太)

[INDEXへ▲](#)

伊勢崎エコ・マラニック (伊勢崎西部スポーツクラブ)

概要

- 実施頻度：毎年4月第2日曜日
- 場 所：ラブリバー親水公園うぬき、西部公園、
広瀬川サイクリングロード、他
- 参加者数：リハーサル大会(平成22年)56名
第1回(平成23年)107名
第2回(平成24年)164名
第3回(平成25年)200名
- 参加者層：小学生～70歳代男女
- 参加費：18kmの部：2,000円
33kmの部/43kmの部：3,000円

●プログラムの特徴

「マラニック」とは、「マラソン」と「ピクニック」の造語です。競走ではなく、春の花咲くコースを参加者それぞれのペースで走り、時には歩き、ゴールを目指します。制限時間8時間という余裕のある時間設定も魅力です。コース途中で、渡し舟でショートカットするコースも設定してあります。地域のB級グルメの提供や、ゴール後には地元食材の提供、地域の企業によるマッサージサービスの提供など、地元色たっぷりのランニングイベントです。



笑顔を集めるエコ・マラニック

ランニングを始めた誰もが一度は夢見るのがフルマラソンの完走です。ところが、県内にフルマラソンの大会はありませんでした。そこでクラブでは、クラブの活動方針「もっと気軽にEnjoy



Sport!」のもと、フルマラソンにも気軽に挑戦できるようなコースを考え、地域資源である公園から立体交差のサイクリングロード(CR)を活用し、ほとんど車道と交差することのない約43kmコースを作りました。さらに毎年4月の第2週に開催することにし、菜の花の黄色、ハナダイコンの紫色で色づく桜並木からスタートできるコースとしました。

また、ピクニックの要素として、地域のB級グルメ「焼きまんじゅう」をCRに隣接する店で提供したり、33kmコースは利根川を渡し舟で渡ることができるコースとしました。この渡し舟は「コース途中で舟に乗れる」と最も人気の高いコースとなりました。

一工夫で「エコ」と「嬉しさ」を

大会運営面でも一工夫しました。競走ではない上にCR利用なので、43kmという距離の割に交通整理スタッフが少なく済みます。給水所にカップを置かず参加者各自で持参してもらうことで、ゴミの減量、給水スタッフの労力低減にもなり、約20名の本部スタッフで対応できています。さらに「エコ」をテーマとし、ゼッケンをとめる安全ピンも参加者持参を呼びかけたり、ゴール後の軽食をリユース食器で提供するなど、環境意識の啓発にも一役買っています。

また、自分達が受けて嬉しいサービスを提供するために、地域の団体や企業と連携しています。地元食材の消費拡大を推進する団体からトン汁の提供、地元の企業からマッサージの提供、参加賞として地元産ブランド米の提供などのご協力をいただき、低コストながら参加者には概ね好評で、毎回ゴール地点は笑顔で溢れています。

被災地の復興支援のために

記念すべき第1回大会の約1ヶ月前に東日本大震災が発生、全国のマラソン大会が中止となる中、クラブスタッフの誰からも中止の言葉は出ず、予定通りのサービス提供を心がけました。準備段階では、協力店から食材、水、燃料がなくなり、提供する給水・給食物、スタッフの移動燃料確保等、不安はありましたが、幸い開催直前には落ち着いて無事に開催することができ、当日は多くの笑顔に囲まれました。この経験、そして未だ復興途上にある被災地を忘れないために、第2回大会以降、参加費の10%を被災地に送金しています。

今後、被災地への継続した支援活動、伊勢崎の魅力の再発見、市外への発信を図るためにも、多くの団体や企業、そして行政と連携して、ランニングを核として多くの方で賑わい、地域の活力向上に貢献できるイベントになることを夢見ています。

(特定非営利活動法人伊勢崎西部スポーツクラブ 理事長 平林 和己)

クラブプロフィール

設立年月日：平成21年2月28日(任意団体)

平成24年12月20日(特定非営利活動法人)

地域：群馬県伊勢崎市西部地区(郊外型商業施設の進出に伴う宅地開発により、新たな世代が転入し人口が増加している地域)

運営：会員数 151名(平成25年3月現在) 予算規模 約760万円(平成24年度決算)

特徴：平坦、長い日照時間、市内を貫く河川、河川沿いに整備されるサイクリングロード、隣接する大規模公園など、地域資源を活用して、ランニング、ウォーキング、カヤックを中心に「スポーツの見えるまちづくり」を掲げて活動しています。

連絡先：〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町3038-2

TEL：0270-22-2338 FAX：0270-75-1006

E-Mail：fact@beige.plala.or.jp

クラブHP：<http://wind.ap.teacup.com/seibusports/>

[INDEXへ▲](#)

幼児・小学生体育教室 (元気・夢クラブ)

プログラム概要

- 実施頻度：4シーズン制、1シーズン10回(月曜日19:00~20:15)
- 場 所：美里町立中央小学校体育館
- 参加者層：4歳~9歳
- 定 員：60名
- 参加料：1人当たり3,000円/1シーズン
- 実施種目：春期・・・「各種走運動」「ボールを使った運動」「平均台遊び」「力試し運動」
夏期・・・「ラジオ体操」「バンブーダンス*」「マット遊び」「跳び箱遊び」
※長い竹を使ったダンスプログラム
秋期・・・「走運動」「ラダーを使った動き」「リレー」「長縄跳び」
冬期・・・「リズムダンス」「おにごっこ」「短縄跳び」「長縄跳び」
- 経 費：サポーター(指導者)旅費1回300円(謝金はなし)、会場使用料1回840円
- 運 営：サポーター(指導者)19名 教室1回あたり10~12名程度で運営



1 プログラム導入の背景

「元気・夢クラブ」(以下、クラブ)では、以下の背景からプログラムを開設しました。

- クラブのある熊本県美里町では、近年、子どもたちの外遊びが減少し、体力も低下傾向にあった。
- 熊本県は学校運動部活動に入ることができるのが小学4年生からであり、幼児期から小学3年生までは子どもは運動する機会が少ない。
- 運動能力(特に神経系)は、幼児期から8歳頃までに身に付けさせると効果的である。

これらの理由から、クラブ会長である長松雅昭さんが考え出したのが、「幼児・小学生体育教室」です。

このプログラムは、長松会長が叩く太鼓のリズムに合わせてスタートします。子どもたちは次から次へといろいろな種類の運動遊びを行っていきます。休憩は場の設定を変える時だけで、終了する頃には、子どもたちはみんな汗びっしょりの姿で帰ります。

2 人気のポイント

このプログラムのポイントは大きく3つあげられます。

- 多様な動きとゲーム性のあるプログラム

このプログラムでは、跳ぶ、蹴る、体を曲げる・伸ばす、前後左右に移動するなど、次々に動きを変えます。また、じゃんけんをする、回数を競わせるなど、ゲーム要素を加えることで楽しみ方の幅を広げ、子どもたちがどの種目にも飽きずに取り組めるようにしています。

参加するほど多様な動きが身につくため、子どもたちが継続して参加してくれます。子どもからは「かけっこが速

くなった」「体が柔らかくなった」などの声を聞きます。

○集団行動に必要なルールの徹底

時間を守る、靴の出し入れをきちんとする、挨拶する、返事するなどのルールを守ることを事故防止の観点からも徹底しています。こうした「ルールを守ること」を徹底することが保護者から好評です。

○子どものやる気向上に向けた仕掛け

皆勤賞制度を設け、各シーズンや年間(4シーズン)を通して休まず参加した子どもを表彰しています。これが子どものモチベーション向上につながっています。

3 運営面で気をつけていること

子どもが対象のプログラムであるだけに、ケガ・事故などがないよう多くの大人の目が届くように気を配っています。

クラブでは地域の中からプログラム運営を手伝っていただけるサポーター制度を取っており、小学校教諭だった長松会長が教諭時代の教え子や会員の保護者、家族などに依頼し、現在19名のサポーターで運営されています。(取材時には14名のサポーターがおり、サポーターには1人につき300円の旅費を支払っています)サポーターになっている方は保育士、教師、消防士、役場職員、主婦、学生と様々ですが、共通点は子どもが大好きであるということです。

4 今後について

長松会長は、「活動場所を増やすなど、さらに多くの子どもたちに運動の楽しさを味わってもらい、たくましく生きるための体力を身につけてもらいたい」と考えています。その熱意ある姿にクラブの将来を、また次世代を担う子どもたちの元気づくりに力を注ぐ思いを感じました。

クラブプロフィール

設	立：平成17年5月29日 経緯 体育指導委員(現スポーツ推進委員)を母体として設立
地	域：人口 12,907人 特性 高齢化率が人口の約40%。元気のいい高齢者が多い町
運	営：会員数130人(平成25年度)会員数の約50%が小学生以下 予算規模 約330万円(平成25年度)
特	徴：クラブ主催のウォーキングイベント(さくら健康フェスタ in 美里)では、地域住民からも自発的に協力を得て参加者をおもてなしし、町の活性化に貢献している
連	絡 先：〒861-4405 熊本県下益城郡美里町萱野745下 美里町総合体育館内 TEL：0964-46-4141 FAX：0964-46-4141 E-mail： i-migita@fsinet.or.jp

[INDEXへ▲](#)

歩こう会 [ウォーキングサークル] (NPO 法人高城スポーツクラブ)

プログラム概要

- 実施頻度：毎月1回程度（年間10回）
- 場 所：高城運動公園からバスで約1～2時間の距離にある場所
- 参加者層：50代～70代
- 定 員：1回当たり37名（バス1台分）
- 参 加 料：1回当たり200円／1名 別途年会費（一般3,000円、シニア2,000円、家族5,000円[2名分]）
- 実施種目：ウォーキング
- 経 費：保険料、駐車場代（必要な場合のみ）
- 運 営：毎回クラブスタッフ2名～3名を列の先頭と最後尾に配置し、安全確保に配慮している。
- 工夫した点：参加者募集に苦労したが、行政の広報紙や新聞、口コミでの広報で解決



1 プログラム導入の背景など

「NPO 法人高城スポーツクラブ（以下、クラブ）」（宮崎県都城市）では、以下の背景からウォーキングサークル「歩こう会」を実施しています。

- クラブ理念は、「人づくり 生きがいくくり 健康づくり 仲間づくり そして活力あるまちづくり」であり、誰もが参加しやすいウォーキングが「いっでん だいでん ずーつ（いつでも だれでも いつまでも）」スポーツに親しむことを目指すクラブの方向性と合致していた。
- ウォーキングを継続するうちに、遠方に出かけたほうが小旅行の意味合いも出て、参加者も集まりやすいことから、毎回様々な地域で町の歴史や雰囲気を感じることができる6km～8kmのウォーキングサークルとした。

2 運営のポイント

(1) 開催の流れ

- 1) 「歩こう会」の会員に活動場所の希望をとり、事務局で決定
- 2) バスの手配後、会員に開催案内のハガキ送付。参加希望者は事務局に電話申込み
- 3) 事務局で参加者の把握、昼食の手配、保険加入手続きなど

(2) 当日のスケジュール

- 1) 健康状態確認、コース説明、準備運動
出発前にはクラブ理事長がリーダーとなり、しっかりと準備運動を行う。クラブマネージャーからはコース、水分補給や歩く速度、安全管理、昼食場所などについて説明。

2) ウォーキング実施

クラブスタッフが必ず2～3人同行、列の先頭と最後尾に配置し安全確保に配慮する。

3) 昼食、訪問先などで買い物

3 人気のポイント

「歩こう会」では、事業実施に当たり次の工夫をしています。

○2ヶ月に1回は海岸線を歩くコースを設定している。(クラブ所在地域は盆地であり日頃海を見る機会が少ないため)

○実施場所が同じであっても4月は椿、翌年10月にはコスモスをそれぞれ観賞できるようにするなど、季節に応じた場所を選んでいる。また、2年連続して同じ時期に同じコースを歩かないようにしている。

また、運営する上で次のことに留意しています。

○スタート、ゴール地点と中間地点にトイレがあるように設定する(小休憩ができる場所の確保)。

○歩道の設定、十分な道幅が確保されているかなどを確認する。

○参加者の体力を考慮し、坂道が多い場合や外が暑い場合は距離を短めにする。一方で平坦なコースの場合は、少し負荷がかかるようにコース設定する。

○安全管理の観点から、応急手当できる道具やAEDを持参する。

以上のような工夫もあり、「歩こう会」の会員は仲間と一緒に景色や会話を楽しみ、歴史を感じ、食事を楽しむことで、「また、参加しよう!」という気持ちになり、日常生活で運動する動機づけにもなっています。また、高齢の方にとって自分で車を運転しての遠出は難しくなりがちですが、「歩こう会」に参加することで、いろいろな場所に行けることも人気の秘訣となっています。

参加者数は開催当初、クラブ所在地域の方々 30名程度でしたが、口コミなどで広がりを見せ、今では60名程度となっています。その内の3～4割は町外からの参加者となっているそうです。

4 今後について

「歩こう会」の会員数が年々増えてきているため、今後クラブでは参加回数を増やすことやコースがマンネリ化してきているので新たなコース設定を考えています。また、現在は行政(高城総合支所)所有のバスを借用していますが、今後借用できなくなる可能性もあるので、スポーツ振興くじ助成事業を活用したマイクロバスの購入も検討しています。理事長の「誰でも参加ができ、楽しい仲間と一緒に体を動かし、新しいことにも挑戦し、会員でつくりあげるクラブ。人と人がふれあい、磨きあう、心豊かなまちづくりを目指しています」という言葉が印象に残ります。

(宮崎県クラブアドバイザー 宮田育俊)

クラブプロフィール

設	立：平成19年2月28日(平成22年10月29日NPO法人化)
地	域：宮崎県都城市高城町
運	営：地域人口 約11,000人 会員数 401名(平成25年7月現在) 予算規模 約4,000万円(平成25年度)
特	徴：高城運動公園を中心に幼児から高齢者までを対象に活動を行っている。
連	絡 先：〒885-1202 宮崎県都城市高城町穂満坊2492番地 高城運動公園総合体育館 TEL・FAX：0986-58-5514 E-mail： taka-spo2007@btvm.ne.jp

ふあいぶる子ども科学実験教室（ふじみ野ふあいぶるクラブ）

プログラム概要

- 実施頻度：2～3ヶ月に1回(年間4～5回)
- 場所：市内小学校図工室など
- 参加者層：小学生(1～6年生)の男女及びその保護者
※子どもだけでなく親子参加型の教室として実施する場合もある
- 定員：20名～40名
- 参加料：500円～1,000円/回
- 実施種目：理科(科学、技術、電気、化学など)の実験・体験
- 経費：材料費(数千円)、講師謝金(5,000円程度)、ボランティアスタッフ謝金(1,000円程度)、チラシ印刷費(5,000～10,000円程度)など
- 運営：企画運営を行う「ふあいぶる科学班」及び事務局スタッフ計10名
※1回開催あたり6名程度で運営
- 教室名(題材)：「色が変わる焼きそば(水溶液の不思議)」
「自転車の仕組みを調べよう(自転車の分解)※市教育委員会主催、クラブ主管」
「ドライアイスであそぼう(ドライアイスの不思議)」
「静電気モーターをつくろう(静電気の不思議)」など
- 工夫点：実験は4人1グループとし、それぞれのテーブルに子どもの保護者で構成する「ふあいぶる科学班」スタッフを配置し、安全面に配慮している。

1 プログラム導入の背景

「ふじみ野ふあいぶるクラブ(以下、クラブ)」(埼玉県ふじみ野市)では、以下の背景からプログラムが作られました。

- 地域に子ども達が対象の理科(科学など)をテーマとした活動プログラムがなかった。
 - 学校現場においても理科の実験は専門的な知識・技能が必要であり、準備時間を要することから子ども達が満足するほど十分には実施されていないと思われた。よって、小学生が実験を体験し、学び楽しむ機会づくりへの要望(ニーズ)があった。
 - クラブが目標とする「生涯学習及び学校教育の支援」を形にできる活動を行いたかった。また、地域の働き盛りの世代が活動を支え、参加できる場を作りたいと考えた。
- これらの理由から、クラブにおいて「子ども科学実験教室」プロジェクトが動きだしました。

2 プログラムの運営

クラブの方針に共感していただいた保護者がリーダーとなり、大学や専門学校で理系出身、あるいは理系・技術系などの仕事をされている保護者に声かけをしました。そして、それぞれが持っているスキルを活かし協力するボランティア「プロボノ」として集まっていたいただき、企画運営チームがつけられました。その名も「ふあいぶる科学班」です!

「ふあいぶる科学班」スタッフによる企画運営(アイデア)ミーティングでは、理科・技術の専門用語が飛び交いながら、いつも大変盛り上がり、あっという間に時間が過ぎていきます。最終的には、子どもがいかに楽しみ体験できるかという観点で工夫を施した内容にするほか、知り合いのお子さん方に参加してもらおう予備実験を行うなど準備も万全にします。その甲斐あってか、参加希望者数は回を重ねるごとに増え、先日(平成25年8月)開催した「ドライアイスであそぼう(ドライアイスの不思議)」

議)」では、受付開始20分程で定員となり、急遽開催回数を増やしました。

3 人気のポイント (他クラブへのアドバイス)

「理科実験の体験」は、スポーツと同様に総合型クラブが「テーマコミュニティ」として子どもたちを育む場をつくるだけでなく、今まで地域活動に関わりがなかった方々が参加し、つながる機会づくりになる可能性を秘めていると思います。また、行政の生涯学習関連部署や学校との新たな関係構築につながる可能性もあり、総合型クラブにとって大変プラスになります！
※テーマコミュニティ…主に地域社会などにおいて特定の地域課題をテーマとして集った集団を指します。

4 今後について

開催場所や開催回数を増やして欲しいという要望もありますが、そのためには課題である施設面(現在、公民館などの公共施設が利用できず、学校教室開放の活用に限られているため開催場所が限られていること)や人材面(ふあいぶる科学班スタッフ数の不足)について取り組む必要があります。現在、行政の関係部署と密に連携をとって進めており、先行きは明るいと思います。さらに協働推進部署などを通じ、地元企業や技術系企業のCSR(社会的責任)との連携も、模索していきたいと思っています。

今後は、地域の子ども達にとって「理科実験を体験して、学び楽しむ場」として定着していけばと思います。将来「科学オリンピック」に出場する子どもが出る日を夢見ています。また、働き世代のお父さん達が地域活動に参加できる場のモデルにもなっていけばと思進めています。



設立年月日：平成21年3月8日

地 域：埼玉県ふじみ野市内全域(6中学校区)

運 営：地域人口 109,837人(2013年10月1日現在)

会員数 440名(2013年10月1日現在)

予算規模 約2,000万円(スポーツ振興くじ助成金含む)

特 徴：都市部のベッドタウンに位置し、小・中学生及びその保護者層(20～40代)を主な対象としている。またスポーツ振興のみならず、生涯学習・学校教育の支援、子育て支援等の分野でも、市と連携・協働ができるよう取り組みを行っている。

連 絡 先：〒356-0011 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1(ふじみ野市役所敷地内)

ふれあいプラザかみふくおか2F ふじみ野ふぁいぶるクラブ事務局

TEL:0120-961-184 FAX:049-293-8457

E-mail: fujimino_ssc@yahoo.co.jp

URL: <http://fujimino-ssc.com>

Facebook: [facebook.com/fujimino.ssc](https://www.facebook.com/fujimino.ssc)

[INDEXへ▲](#)

ボクササイズ教室

(総合型スポーツクラブTEAMたまぐすく)

1 プログラム概要

- 実施頻度：第2・第4水曜日 10：30～12：00
：第2・第4金曜日 20：00～21：30
- 場 所：ウェルネスリゾート南城(スポーツ棟)
- 参加者層：20代～60代(女性限定)
- 定 員：10名～15名
- 参 加 料：1,000/月(保険料は別途徴収)
- 経 費 面：施設使用料 1,500円/回
- 運営人数：指導者1名、助手2名(内1名は受付・安全管理を行う)
- 工 夫 点：ボクササイズを通して、参加者同士のつながりやコミュニティを促進することを目指しています。



2 人気プログラムである秘訣

■きっかけ

クラブマネジャーの金城道年・真弓夫妻は、地域におけるスポーツ活動の実態調査を行う中で、子育て中の主婦をはじめとする女性を対象とした活動がないことに注目し、ストレス発散につながるボクササイズ教室を開設しました。

■教室開設に向けて

対象者となる主婦層へPRをするため、夕方に主婦が集まるスーパーマーケットの空き施設を活用したワンコイン体験会や新聞の無料広告欄を活用し、広報活動を実施しました。

■活動状況

現在は10～15名程の参加者があります。参加者の1/3は教室開設当初から参加しているリピーターで3年間も継続しています。ボクササイズを通して、参加者の体のキレやフォームも良くなり、美しい体型づくりや健康づくりに役立っています。さらに、参加者同士のコミュニケーションが活発になり、クラブ主催イベントにボランティアスタッフとして関わる方や、参加者同士でマラソン大会に出場する計画が出るなど仲間意識が向上しています。また、参加者自ら知人への紹介や勧誘を行ってくれることもあります。

■人気の秘訣

参加者同士が気軽に会話ができるアットホームな雰囲気をつくれたことが人気の秘訣だと思います。金城道年さんは指導者に必要なスキルとして「スポーツ指導ができるだけでなく、会場にいる人が活動を通して気兼ねなく会話できる雰囲気づくりやコミュニケーションを図れる環境づくりを行うことが大切だ」と言います。雰囲気づくりのポイントとして、パンチンググローブ等の機材を女性好みの可愛いデザインやカラーにしたり、清潔感(特に臭いの防止)を意識しています。教室後は機材の消臭ケアを入念に行っています。

■プログラムの今後の展望

現在、スポーツ振興くじ (toto) 助成金を活用して実施されていますが、今後の自主・自律に向けて会費設定の見直しとともに、教室参加者からの指導者育成や、参加対象の拡大 (特に中学生・高校生) を目指しています。

(沖縄県クラブアドバイザー 座間味 洋貴)

クラブプロフィール

設 立：平成 25 年 3 月 10 日
地 域：沖縄県南城市玉城 (4 町村が平成 17 年に合併している)
運 営：会員数 100 名
 予算規模 320 万円 (toto 助成金含む)
特 徴：新たな地域コミュニティづくりを目指してスポーツ活動や食育講座などを取り入れ、幅広い年齢層や、スポーツが苦手な方でも参加ができる活動を推進しています。また、参加者が主体となって元気で積極的なクラブ運営を目指しています。
連 絡 先：〒901-0605 南城氏玉城字中山 510 番地
 TEL：090-3790-8158 FAX：098-949-1118
 E-mail：totalpro2010@gmail.com

[INDEXへ▲](#)

宣言しよう、フェアプレイ。

宣言しよう。
全力をつくし、挑戦し、
楽しむことを。

宣言しよう。
仲間を信じ、思いやることを。

宣言しよう。
約束を守り、応援してくれる人への
感謝を忘れないことを。

その誓いは、スポーツを
もっと楽しいものにしてくれる。
日々の生活を
もっとすがすがしいものにしてくれる。

そして多くの人々を活気づけ、
今の日本を元気にするチカラにも
なってくれる。

さあ、あなたも手を胸に。
フェアプレイの誓いを。

フェアプレイで
日本を元気に

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンで、
フェアプレイの輪を広げ、日本をもっと元気に!

あなたもはじめの一歩を、まずはホームページで、

[フェアプレイ宣言](#) [検索](#)



日本体育協会は、スポーツ立国の実現のため、国民体育大会をはじめとする各種スポーツ大会の実施やスポーツ指導者の育成等を行うとともに、スポーツの持つ価値や意義を広くアピールし、国民の生きる力の育成と活力ある社会の構築に貢献していきます。また、日本をもっと元気にしたい。その思いから、「フェアプレイ宣言」推進の取り組みも行っています。

公益財団法人
日本体育協会

asics

大塚製薬



三井住友海上
MS&A INSURANCE GROUP

LAWSON

LOTTE

SUNTORY

わたしたちは、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを応援しています。